

令和3年度 学校評価(自己評価)集計結果 〈寄宿舍〉

青森県立青森聾学校

回収率 100% (全9名)

下記の項目について、評価の欄の1～4の該当する数字を○で囲んでください。

4 そのとおりである 3 おおむねそのとおりである 2 やや違う 1 違う

* 各評価項目の平均は、小数第2位で四捨五入したものです。

NO	評価項目	評価	H31 平均	R2 平均	R3 平均
1	指導力の向上について		3.4	3.4	3.5
1-1	自分は、幼児児童生徒のアセスメントを適切に行い、障害特性や個のニーズに応じた支援を行っている。	評価 人数	4 2	3 7	3.2
1-2	自分は、幼児児童生徒に分かりやすい手立てを工夫し、生徒の課題改善に取り組んでいる。	評価 人数	4 4	3 5	3.4
1-3	自分は、幼児児童生徒のコミュニケーションの力や言語力の向上に努めている。	評価 人数	4 4	3 5	3.6
1-4	自分は、集団生活のルールや社会におけるマナーなどの指導に取り組んでいる。	評価 人数	4 5	3 4	3.6
1-5	自分は、基本的生活習慣(身の回りのこと、挨拶や礼儀などのマナー、食事の仕方や健康についての知識等)の定着に努めている。	評価 人数	4 5	3 4	3.6
1-6	自分は、研修会や研究等をとおして、聴覚障害教育や生活指導に関わる専門性の向上に努めている。	評価 人数	4 3	3 6	3.3
2	支援計画や指導計画について		3.3	3.3	3.3
2-1	自分は、幼児児童生徒の実態を的確に把握し、障害特性や実態に応じた指導計画を作成し、評価している。	評価 人数	4 5	3 4	3.6
2-2	自分は、幼児児童生徒の課題を焦点化し、的確な指導仮説・方針を設定している。	評価 人数	4 4	3 5	3.4
2-3	地域での奉仕活動や行事等の交流活動を行い、社会性や豊かな人間性を育てている。	評価 人数	4 2	3 5	3.0
2-4	地震や火災等の場合の避難の仕方、帰省指導、帰省確認を行っている。	評価 人数	4 3	3 6	3.3
2-5	インフォームド・コンセントの推進に努め、目標や指導計画の共有等、保護者支援の充実を図っている。	評価 人数	4 3	3 6	3.3
3	キャリア教育について		3.5	3.3	3.4
3-1	幼児児童生徒の実態に合わせて、生活改善や課題解決に向けた学習を設定している。	評価 人数	4 3	3 6	3.3
3-2	金銭管理や余暇利用、健康や安全に関わる内容を取り上げ、社会的自立に向けた支援を行っている。	評価 人数	4 2	3 7	3.2
3-3	自治会活動など、生徒の主体的な活動を支援している。	評価 人数	4 5	3 4	3.6

4 センターの機能について							3. 7	3. 6	3. 6
4-1	学校は、早期教育相談及び多様な教育相談を実施している。	評価	4	3	2	1	3. 7	3. 7	3. 7
		人数	6	3					
4-2	学校は、公開講座等聴覚障害への理解啓発を図っている。	評価	4	3	2	1	3. 8	3. 6	3. 6
		人数	5	4					
4-3	学校は、特別支援教育の啓発と推進のために他機関等と連携協議会を実施したり、地域や他校の要請に応じたりとセンター的機能を果たしている。	評価	4	3	2	1	3. 8	3. 7	3. 6
		人数	5	4					
5 学校運営について							3. 5	3. 5	3. 6
5-1	学校課題が、職員間で共通理解され、達成に向けた取り組みが行われている。	評価	4	3	2	1	3. 2	3. 4	3. 3
		人数	3	6					
5-2	各学部、各分掌「報告・連絡・相談」が十分に図られ、効率的な教育活動がなされている。	評価	4	3	2	1	3. 3	3. 3	3. 1
		人数	2	6	1				
5-3	学校は、授業参観や学級懇談などを行い、保護者と話し合う機会を十分設けたり、保護者の意見を聞いたりしている。	評価	4	3	2	1	3. 3	3. 4	3. 6
		人数	5	4					
5-4	学校は、地域に向けて、本校並びに本校の幼児児童生徒の理解啓発に努めている。	評価	4	3	2	1	3. 3	3. 6	3. 6
		人数	5	4					
5-5	学校は、教育活動の様子や結果を各分掌の活動の資料や記録を適切に整理し、活動内容の評価を行い、改善・充実を図っている。	評価	4	3	2	1	3. 3	3. 4	3. 7
		人数	6	3					
5-6	分掌組織は、年齢や経験等のバランスが考慮された組織となっている。	評価	4	3	2	1	3. 3	3. 3	3. 3
		人数	4	4	1				
5-7	学校は、施設・設備について定期的に点検を行い、管理が行われている。	評価	4	3	2	1	3. 6	3. 6	3. 6
		人数	5	4					
5-8	学校は、非常災害や事故発生時における対応マニュアルを作成し、対応するために共通理解を図っている。	評価	4	3	2	1	3. 6	3. 6	3. 8
		人数	7	2					
5-9	学校は、いじめを見逃さないよう幼児児童生徒の学校生活の把握及び指導を行っている。	評価	4	3	2	1	3. 8	3. 4	3. 7
		人数	6	3					
5-10	学校徴収金について、用途が明確にされ、計画的に執行されたり通帳を用いて適正に管理されたりしている。	評価	4	3	2	1	3. 9	3. 8	3. 8
		人数	7	2					
5-11	学校は、各種便りやホームページ等活用し、教育活動や学校生活についての情報発信に努めている。	評価	4	3	2	1	3. 7	3. 8	3. 7
		人数	6	3					
5-12	学校は、業務改善によって多忙化の解消が図られている。	評価	4	3	2	1	3. 5	3. 4	3. 5
		人数	4	5					
全平均							3. 5	3. 4	3. 5

意見要望

- ・ 特記事項なし

集計結果の概要

寄宿舎職員の自己評価では、全評価項目において平均が3（おおむねそのとおり）以上であり、全体の平均値は上昇の傾向にあった。

「障害特性や実態に応じた指導計画の作成・評価」「教育活動や分掌の記録の整理及び評価・改善・充実」「いじめ防止」に関する項目の評価が0.3ポイント上昇しているが、「社会的自立に向けた支援」が他の項目と比較すると下降しており、検討・改善が必要と考えられる。